

賛美:

前半:

はい、ここで顔を合わせている我々も、そして、ラインでそれぞれのところにいらっしゃる方々も今、安息ですか？
我々の日常生活は、バタバタと色々な気持ち、色々な状態ですけど、いつも戻っていく所があるから。今もその時ですから。11月のキングダムセミナーを続いて、分かち合っていきましょう。19:37.63

今ですね、パート2をゆっくりやっています。パート1から大事なことばかりです。

先月は、49、50、51 ページあたりをやりました。ここでは、『相互内在』という真理、この現実の根底にあるのは何でしょう。それは、そもそも神様ってそういう関係性をもっておられる。初めからそういうお方なんです。変わりません。ずっと変わりません。そういうことを確認してきたんです。

何度も言いますが、私達を屈服させ、服従させ、神は人を支配するために、神があなたを完全に押さえつけて、支配するために造ったわけではありません。でしょ。初めから捉え違いをしていくと、新約まで深い真理はわかりません。21:36.71

神に造られた初めのアダム。アダムは確かに失敗しました。失敗しましたけれど、即座に「お前たちはもう駄目だ。お前達は、罪を犯したんだ！」と神様は言っていないんです。（それに、罪という言葉は、もっと後に出てきます。）
神様は、創世記 3 章のあの騒動があったきに、蛇と女と男に対して 一つ 一つ言葉を与えたんです。それを『どう読むか』ということを行いましたよね。 神様はアダムを諦めていません。

そのあとで、新約聖書でも罪、罪って出てくるじゃないですか。私たちの罪のために、私たちの罪を贖うためにってね。その『罪』という言葉は、・・・神様は、女のひとり子を、女の末の人物が、サタンの頭を砕くわけなんですよ。その頭を砕くひとり子を待ち望み、育てるために、その子孫と契約を結んで、神の民とされた。それは、ひとりのメシアを受け取って育てていくための大いなる準備だったわけ。

それで、神が選んだ民を訓練するための契約を結んだ。だけど、その契約を人間たちは守れない。なかなか守れない。神様は厳しくそれを教えられた。その神の命じる契約を踏み外すことを『罪』とされました。だから、新約聖書の中で罪、罪とよく出てきますが、そこに語っている人たちも、みんな旧約のその律法のもとで育ってきた、生きてきた人たちだから、当然、その言葉が使われてきました。罪を持っているのか持っていないのかという、その白黒をしっかりとつけることを徹底的に教えられてきたんです。でも我々異邦人は、それを知りません。しかし我々異邦人も、罪、罪と言われてきました。それは何？律法の違反というものを罪というけど、今度はもっと根本的に、暗闇の世界、暗黒の世界の支配の中に、私たちが自分で身を委ねている。そのことを同じ言葉で『罪』とも言われてきました。26:11.31

私達は異邦人であって、罪を持っていた、暗獄の支配の中にいたけど、だんだんと主の言葉を知って、イエス様のことを知って、心をそっちに向き始めるんでしょ。我々は、向き始めたんじゃないですか。そして、主に向いているんじゃないですか。自分はまだどっか頼りないけど、主に向いて、主の心を知っていくわけ。

神様の心は、ずっと全人類がその罪の中にいても、こっちを向いていて下さったわけです。そして、準備して下さったわけです。我々がいつの時か、その時に立って、しっかり主に向き合った時に、我々の内側に変化が起こる。大いなる変化が起こって、我々は光を受けて、そして、我々のうちに主の霊をいただくようになった。

27:39.81

そしたらね、よく聞かれるんです。「罪はどうなったんですか？」と。私達は、そう言われて主の元に来たけど、まだおどおどしているんです。人っていうのは。『主よ、そう言って許してくださって感謝です。主が共にいてくださって感謝ですけど、でも、私はまだ頼りなくて、もうおどおどしています。』と。28:12.59

そうなんです。だから、「主を知り始めて私はしっかり神の子として聖々しく立てました」と言うようになるまで、そんなに、いっぺんにはいかないんです。ゆっくり、ゆっくり、徐々になっていく。徐々に変えられていくんでしょ。「ああ、このところちょっと分かってきて、しっかり御言葉に立てたと思っていたけど、・・・また、色々あって、しょげることがあって、煩わしいことがあって、・・・」と、自分達の気分がまた、後戻りする。

それ、みんなあることですけど、だけど、そこで、じゃあ、私達の心が、私達の知識と決心が、その時点で、『何を選ぶか』というのを、一つ一つ決めていくわけです。29:42.28

主は、私達と『相互内在』を造ってくれています。造ってくれているけれど、それをしっかり受け止めきれない私達がいる。それが問題なんです。本に行こうと思ったけどもうちょっと言わせてください。30:20.99

じゃあ、『相互内在』という、主が内におられるというのは、なんでわかるんですか？聖霊が内住しているということを、なんでわかるんですか？まあ、人それぞれあるでしょうけれど、我々の内に聖霊の実が湧いてくるからです。愛、喜び、平安、寛容、善意、誠実さ、柔和、自制でしょ。聖霊が湧いてくる。聖霊の心が湧いてくるんです。

31:18.85

それをいつも私達は、聖霊と共に歩む生活がマイホームですから、別宅じゃありません。それ、別荘に行ってるんじゃない。マイホームなんです。御霊と共に、聖霊の実が湧き溢れるそのところに我々はいらんです。そこがマイホームとされたんです。マイルームです。大事なことです。32:03.93

どこか集会に行った時だけ「そこにいます」じゃなくて、集会に行くとか行かないとかもう関係なく、私が歩いて生きているところ、どこでも御霊とのマイホームなんだということなんです。32:32.14

それと、同時に御霊の賜物というものも現れて来る。御霊が内にあるという。そして聖書は、「御霊に満たされなさい」と勧めている。御霊と共に歩むことを進めている。具体的に私達は、この聖霊と共に歩めと言われていることをしっかり認めて、誰とどの友達やどういう家族と歩むか、それを考えるもっと以前に、御霊と共なるマイホームを持ってないといけません。パートナーです。ペアーです。そうすると、もっと身近になりたい、もっとリアルになりたい、思っているんですよ。もっとリアルになりたいとそう思って聖霊を慕い求めて祈っていると、内側から異言がわいてきます。異言をまだ語ったことがないという人は、「御霊を与えて下さったことを感謝します。もっと満たして下さい。」と、主に求めてご覧なさいよ。主が与えて下さいます。今まで語ったことがない言葉が口から出る。でも、口をクッとつむんでいたらだめですよ。あなたが語ろうと思わなければ、出ませんよ。語り始めるんです。でもどういう意味かは分かりません。何を言っているのか分かりません。コリント人への手紙の14章あたりにそのことをパウロが詳しく書いています。しっかりと、読んでみてください。大切なことです。

相互内在の実際、相互内在の実態、それを主は、私たちに、誰でもわかるように届けてくださっているんです。

その聖霊をフーンと言って、「ああ、そうなんだー」というレベルで、聞いている人がいっぱいいる。

だから、日常の煩雑な煩わしい出来事に心暗くなって、もやもやして、自分の本来あるマイホームを忘れてしまう。そして、自分のもやもやの中に、うっぷんの中に長く留まろうとしてしまう。36:33.37

だけど聖霊は、そういうあなたに、「おいおい元気出せよ。」と、わざわざ耳のそばで言うてはくれませんよ。

聖霊は助け主であって、あなたが御霊に心を向け、意志を向けた時に喜んでやってくれます。なんで？聖霊が来たんだったら、全部やってくれないんですか？・・・それは、違うでしょう。神様はあなたを共に、あなたの意思で、周りを治めるためのパートナーとして、我々を選んで祝福して、聖霊を、助け主を送ってくださったんです。私たちが私たちの今いるところのあなたが『主役』ですよ。あなたが主役。あなたのルーム、あなたの家の。そして、神のパートナーとしてしっかり立って、周りを治められるように、聖霊が助け主として、あなたの内にいて下さるんです。37:52.60

ここを勘違いしないで。「え〜、聖霊が主じゃあないんですか？」と。聖霊は勿論、主の霊ですよ。主なんだけど、「なんでそんな周りくどい、内住して助けるという方法をとるか」というと、あなたが、我々一人一人が、主と共に世界を、神の国を創造する主人だからなんです。聖霊と共に我々は主人となるんです。38:37.28

天の父が主であることを押し除けての主ではありませんよ。パートナーとしての主ですよ。38:50.83

異言は、我々の頭には意味がわからないけれど、なんで、そんな意味のわらわらない言葉を祈らずにはいられなくさせるんですか？というその意味が、そこにあるんです。我々の内なる聖霊が、天の父に向かって、我々の為に、あなたのために とりなして、「祈ってくださっている」わけ。だから、あなたがどんな悩みが、問題を魂に抱えているかということを、それを一番よく知ってるのは、聖霊です。あなた自身も分かんない。でも、もやもやしちゃう。

で、祈る気持ちにもなれない時があるでしょう。わけ分からない、そんなもやもやを深く知って、それを天の父にとりなして、祈ってくださるんです。それが異言なんです。

私、昔から異言という、異なる言葉って書くこの訳が、なんかもうひとつ気にいらないんだけど、そうではありませんか？もうちょっといい言い訳ないのかなと。でも、あんまり変な訳をして混乱してもいけないから、訳の通り『異言』と言うけれど、異言は、親しい相互内在の交わりを仕立てあげてくれるんです。40:40.09

だから、我々が神様に、問題があつて祈るでしょう。日本語で。『主よ、これどういたしましょうか？』『主よ、・・・して下さい。こうなりますように。私は心を向けています。』と祈る。で、もうこれ以上日本語では言葉が出て来ない。けど、異言に切り替えて祈ってご覧なさいよ。

私ね、異言で祈るという、祈るという言葉は、なんかこう距離感があつて嫌なんですけど、皆さんどうですか？主に祈ると言うけれど、祈らなければいけないほど距離があるんですか？と。時々思うんです。自分の内で主と交わるわけでしょ。主と交わるんです。主と交流するんです。だから、聖霊も、親しく主と交わって下さる。私たちのことを、自分のことを、理解してくださる。だから、わけわかんないけど、異言で祈るということは、大切なことなんです。42:12.71

よく、集会で祈っている姿を見たりします。それは悪くないけれど、個人の主との交わりの異言の祈りの本場、本領は、あなたのホームですよ。ひとりで、滔々と祈るんです。集会で祈るという時は、異言がみんなの為のメッセージをかもし出している時に集会で祈るのがふさわしい。そうすると誰かが、聖霊によってそれを解き明かしてくれるから。そして全員へのメッセージとなるんです。一人の人の聖霊から、全体へのメッセージが解き放たれるんです。それも、キリストと相互内在する私達共同体が相互内在しているという証しなんです。これ、後でまた話します。43:35.49

そこに、相互内在の実態、奥義があります。そこに奥義があると、あんまり聞いて来なかったかもしれないけれど、知っておいて下さい。44:02.78

私、時々、語り合っている時、あるいは相談を受けてる時に聞くんですよ。「ねえ、異言で祈ってる？」と聞く時がある。そしたらね、今まで「存分に祈っています。」という人はまあ、一人もいなかった。「祈っていると言えば祈ってますけど・・・」というこんな感じ。だから、『ああ、そう、そういうふう到现在まで聞いてきたんだね。』って私、言い始めるんです。「勿体無い。与えられているものを使わないでいるなんて」と。それによって、自分の中の考えが思いが、聖霊によってわき立たせてくれるから。自分自身の心のありようが変わってくるんです。」「祈ってますよ。お茶碗洗いながら」という人もいました。はい、それでもいいんですけどね。45:47.91

いいけど、パウロがコリントで勧めていることをよく聞いて下さい。「教会では、異言で一万語話すよりは、・・・一言の預言をしなさい」というそれは、みんなの益になるから、異言は何を言ってるかわからないから、だから、「解き明かすために祈りなさい。」ということ。

ですから、我々一人一人で祈る時にその異言の祈りの意味を、『どういうことを祈っているかということを尋ね求める』ということは大切なことです。だから何々しながらのながら異言もいいよ、出さないより。でも、しっかりとお尋ね異言してみなさいよ。そしたらね、自分の中で、自分の魂の領域が、霊の領域に近づいていく。一致していくんですよ。47:01.44

昔ね、「異言の解き明かしの練習をしましょう」と言って、はるみさんに「はい、異言で祈って」と言って、そして次、私の番。「私も祈るから」と言ってやったことがあるんです。そうしたら、彼女は私の異言を聞いてなんと言ったかという、「なんか、いつもメッセージでしゃべってることと同じような内容ちゃうん」って、そう感じたらいい。まだ発展途上だからね。でもだんだんと慣れてくると、その賜物に長けていく。だから、それは凄く大切なことなんです。48:01.69

また、私自身のことを例えとして話しますが、でも、この具体的な例えで、「ああ、そうなんだ。そうやらなきや駄目なんだ」と思わないでくださいね。いいですね。私、こういう霊的な具体例を出すのがあんまり好きじゃないんだけどね、ちょっと、粹広げるために言いますけれど、・・・私はそんなに毎日、毎日、定期的にダーっと異言で祈っているというわけでは、ありません。ありませんけど、時に「あー、異言で主と交わりたい」っていう欲求というか、思いが、かりたてが来る時があるんです。「ああ、そうしたい。」という、それはもうなんか、内側の腹の底にかり立てられて「そうだ。時間を取ろう」と。一人になるところに行って、誰にも邪魔されないところに行って、10分、15分、いや20分、30分と。長い時は1時間。それ以上を異言で交わり続けるんです。そして、そのことに集中して、自分も魂でそれを心を合わせると、聖霊にそういう思いで主と交わっていくと、その交わる前の時の自分からすっかり心の土台が変わって、リフレッシュするんです。もう、シャキッとするんです。それで、じゃあ何か具体的に示されたか、見えたかという、そんなことはないんですよ。ないけど、自分の中で魂が相互内在の真理の中にシャキッとするんです。「よし、じゃあ、これで今夜は寝て、明日仕事に行けるぞ。明日いい仕事するぞ。」と、建て上げられていくんです。じゃあそのまま行けるのかというと、また2、3日したらまた、しぼむんです。笑・・・そういう時もあるでしょう。魂だから色々あるけれども、それが段々と、持続するようになっていくんです。

51:05.39

昔、関西にいた時に、関西に『祈頭院』というところがあったんですよ。その祈りに専念するための山の中の超教派の教会の活動で、祈禱院というところが。私、のちに、その一人のスタッフもしていたんですけど、そのスタッフになる前か後かはちょっと微妙なんですけどね、何回か行っていました。行くに当たって、はるみさんに、「あのね、三日か四日、祈禱院に行っても良いか？」許可をこうたんです。小さい子供が3人もいてね、お父さん、3日もいなかったから大変じゃないですか、だから、「行かしてもらってもいいか？」って。彼女も考えたすえ、最後に「行っておいで」と言ってくれたので、行かしてもらったんです。その山の中でね、勿論、本当に交わりました

よ。存分に。もうご飯食べないで。もうそんなんをする間も惜しんで。で、三日間のうち雨が降ってない夜があったんで、夜中に山の上に行って、お月さんが昇ってくるのを見ながら、異言で祈っていたんです。52:43.95

そしたらね、その月が段々と真上に上がって来るんです。だけど私の心の霊は、魂も、止めたくないんです。止めたくなくて、もっと、もっと出そうと止まらないんです。（ここ、勘違いしないでくださいね。）そして、一番上になった月が、西の方に沈んでいく。西の山に沈んでいく。月が登って、西の山に月が沈むまで祈っていたんです。山の中で。何時間だろう。でも、止めたくなかったんです。もう、出るわ、出るわ。別にベラベラ、ベラベラという時ばかりじゃないよ。ゆっくり、もう悟すように語る異言もある。また、誰がに、一生懸命説明しているような異言もある。でも主に対して、本当に心から賛美して崇めている。褒めたたえている異言もある。色々出てくる。それを止めたくなかったんです。それで、ずっと祈って、祈って、祈ったんです。その山の中にちょっとした小さな草の無い原っぱみたいな所があって、そこをぐるぐるぐる回ったり、止まったりしながら、やってたんです。54:33.12

月が沈んで、今度東から空がしらんで、明るくなって来る。それで、その頃にはもう止めましたけど。それだけ祈ったら、なんかあったでしょうと、思うかも知れない。だけど、何にもないよ。私の心に何か御言葉がきたとかないんです。それだけ。そうやって過ごした山を降りて、何か奇跡があったでしょうか？ないです。何もないです。でも、私、がっかりしたかっていうと、全然違う。主と交わることが、たっぷりとできたことに、嬉しくて仕方がないんです。55:38.26

パウロがパウロイエス様に出会って、馬から落ちて、目が見えなくなって、そしてダマスコに連れて行かれて、祈ってもらって目が開いて、そして彼がそのダマスコで、「イエス様こそ神だ」と言って宣教をし始めたら、周りの人間が、こいつ何言ってるんだ。この間までクリスチャンを殺しまくってと。受け入れてくれないんです。

そしてパウロは、その後、アラビアに一人で退いて、三年間アラビアにいたって書いてあります。何してたんだろうか詳しく書いてないけど、彼は、先輩の人ペテロやヨハネたちにも会いに行かずに、アラビアに行って、おそらく一人で黙想をし、祈っていたんだろうと私は、思いますよ。パウロはアラビアに行って徹底的に主と交わったんだろうと思いますよ。56:52.28

だからパウロは、コリント人達の混乱の中で、「私は、誰よりも多くの異言を語ることを神に感謝している」と。「祈りなさい」と。「大事にきなさい」と。だから、異言を集会で語るなどか、礼拝で語るなどか、個人で語るなどか、それはもういつか止むからいらないんだと言ってるんじゃないんですよ。

旧約の数々の律法や預言から、新約のパウロが、「ユダヤ人もギリシャ人もないと、男も女もないと自由人も奴隷もないと。キリストにあって、みんな自由なんだ」というその根拠はなんですか？男も女も自由人も全部内に御霊をもらうからです。そして、御霊と交われるからです。そのパウロの旧聖書からの新しい理解がしっかり見えたのは、アラビアでのことだろうと思うわけです。58:16.37

パウロは、誰からそんなことを、イエス様の奥義を、解き明かしを聞いたか。聖霊からしかないです。ですから、パウロは、「誰よりも私は多くの異言を語ること神に謝している」と言っている。58:43.06

でも、ここですよ。勘違いしないでいただきたいのは、「わかりました。じゃあ、徹夜で祈ったらいいんですね」と言う人がいる。そうじゃあない。そんなことを言っているんじゃないんです。「あの人がそう祈ったから、私もやってみよー」と思うんだったら、辞めたほうが良い。そういうふうに、自分の中でそうしたくてたまらないあなたがいるのなら、そしたら、やれば良い。あなたの中でもう沸き起こって、仕方がないその信仰の行為を取れば良いんです。だから、私が今言った具体例を忘れてください。そんなの真似したって始まらない。私の場合は、主への駆り立てがあった。なので、駆り立てられた時に、こうだねと納得したものを、あなたもやれば良いんですよ。1:00:07.08

私たちの主との相互内在が最優先です。全てのどんな兄弟姉妹との関係よりも、あるいは夫や妻との関係よりも、です。親や子供との関係よりもです。自分自身の主との相互内在のアットホームが第一なんです。これもパウロが言っているでしょう。今は、戦いの時代だと。もうあの頃から戦いの時代だから、妻を持つものは、妻がないようにしていなさい。ということは、夫を持つものは、夫は無いもののようしていなさい。なぜならば、妻を持つものは、妻を喜ばせようと、あれこれ考える。夫を持つものは、夫の為に、あれこれ喜ばせようとして気を使います。けれども、独り者は、存分に主の為に全てを仕えるでしょう。ですね。これは第Ⅰコリントの7章かな？後で読んでみてください。1:02:01.89

「それって、ちょっとひどいんじゃないありませんか？」って、思ったことはありませんか？神様が夫婦にしているのに、「妻がない者のように、・・・」という、そういう言い方。なんで、そんな言い方するかというと、そこまで言いながら、パウロが言いたいことがあるわけよ。

だから、我々は夫との関係や妻との関係、親との関係、子供との関係、あるいはクリスチャン同士、あるいは職場での関係、そういう人間と人間との関係にヤキモキしますよ。ほとんど人間の悩みは、人間関係だと言われている。それにヤキモキし、疲れますよ。疲れるけど、「あなたの最もいるべきマイホームは、主との相互内在の中ですから、その相互内在の中で、自分がシャキッと立ち切らないと、あなたは、夫の相手もできませんよ。」ということ。「あなたは妻の相手もできませんよ」ということです。「あなたは、職場の上司も部下も誰の相手もできませんよ。」「フルにあなたの良いところを生かして発揮できませんよ」ということ。1:04:01.73

聖霊がここまで、我々の内で、『我々を立て上げようとしてくださっている』ということ。聖霊が、勝手に何か我々の意思に関係なくやりますよと言っているんじゃない。なぜならば、初めのアダムを造ったパートナーシップを結んだ神の霊を、アダムに入れて、パートナーシップを結んで、アダムに、周りの者に名前をつけさせていくんです。そして、神はそれを見ておられるんでしょ。

そして神は、『エゼルケ・ネグドゥ』、“向き合う者の助け手”として、エヴァを連れてきましたと、言ってるわけです。1:05:27.56

人と人との関係というのは、ここから始まる。あのね、[動物たちに、名をつけた]と言ってる。『名前』と言ってるけど、エバアについては、[と、エバアの名前とした]と言って、動物達と同じような言い方をしてないのが、深いでしょう。そう思いませんか？つまり、アダムは、二つに分けられた片方は、片方の人に対して、ヘブライ語で[ハヴァー（いのち）]というんだけど、[ハヴァーと呼んだ]と、それだけ。

名前をつけるというのは、それらを支配する、治める対象だから、名前を付けるんです。
けれども、アダムは、ハヴァーに対して、そう名前を付けたとは、言ってないんです。

アダムは、ハヴァーに対して、[ハヴァーと呼んだ]と、言っている。それは、治める対象ではなく、造られたパートナーだからなんです。 1:07:07.75

『この神との関係性と人との関係性が、神の創造の相互内在の中に、あるんだよ』と。それを、その後、蛇がやってきて、ぐちゃぐちゃにし、失わせてしまったんです。『私とあなた』じゃなく、『私とそれ』にしちゃったんです。その「私とそれ」との、『それ』という神との関係、人と人との関係を、『私とあなた』という根源的な『初めのアダム』との関係性を持った女の末、イエス・キリストが、それを完成させてくれたんです。

1:08:13.01

そのイエス様を見上げて、向き合う人に父は、『惜しみなく聖霊を与えてくださった。』その父の向き合っている思いを、愛を、受け取ることです。

「じゃあ、・・・」って、ここに来て、ある人から、私、言われたことがあるんです。何かというと、「向き合って、愛を受け取るだけで良いんですか？」と。「自分の罪を悔い改めるって、必要でしょ」と。「え?!ちょっと甘いんじゃないですか?それって」「悔い改めなければ救いはありませんよ」って。・・・はい、あのね、『罪を悔い改める』っていうことは、要するに、今まで、イエス様の十字架の方なんか見てもいなかった人が、イエス様の十字架を素の自分のまま見上げるんでしょ。見上げて、そして受け入れたなら、主は、私達を受け入れて下さいますよ。喜んで。けどね、その時、「ああ、私は罪人ですから悔い改めます。」って、はっきりと自分の罪が、そのまんま全部わかって、・・・そういう人もいますよ。大いに結構じゃないですか。けどね、そこで、「悔い改めなさい。そしたら、バプテストだ」って言われて、・・・。

「私は罪人でした。アーメン!」と言って、そしたら、次に「バプテストだ」と言われて、それを受けたら、「洗礼式を受けたから私は、救われました。」・・・という、この関係が、『私とそれ』との関係の名残りだっているんです。

主に向きあって、「ああ、主よ、そうでしたか・・・」という、主と向き合い始めれば、向き合い始めれば始めるほど、自分の罪深さ、汚れなんて、あとでどんどん、どんどん、わかってくるんです。そうでしょ。初めっから全部

分かった人がいますか？この世の中に。聖い義である愛に満ちた主と交わり、生きていけばいくほど、その反対に自分の汚れと自分の情けなさをしみじみ、分かってくるのが、我々であります。だから、真の悔い改めなんて、後々、何回もあるんです。

初めに伝導されて、「はい、悔い改めなさい。」と言って、「はい、私が口でいいますから、その通り祈って下さいね」と言って、・・・それも悪くないけど、なんか、そういう距離感のある癖がつきませんか？1:11:58.51

私たち、アダムと神様とは一つとなって始めたことが、しくじられたけど、神様は『エデンの園にもう一度帰ってこいよ。十字架を与えるから』といって、我々がエデンの園の門をくぐった。だから、それだけで、神様は OK だと思っていらっしゃいますか？

いいえ、主と共に私たちがもう一度、シャキッと立ち切って、御霊とパートナーとなって、周りをしっかり治めるようになることを望んでいらっしゃる。神の国を造り始めた主は、我々と共に神の国を完成させていくんだと。ずっと変わらざる神なんです。

今、本を読まないで、ずっと話してきました。54 ページの【この関係は、創造の時から霊の世界の根源的事実なのです】というのを。ですから、どうぞ、押さえておきましょう。

そして、55 ページの【私たち人間同士の霊で一つとされているのが、創造の原型】なんですよって。だから、そうじゃないですか。パウロがいっぱい、ここに御言葉をあげてありますけれど、あなたがたはめいめいに、「私はパウロにつく」「私はアポロに属する」とか「私は、ケパに」「私はキリストに」と言っているって。みんな、発展途上なんです。ある人はパウロについて成長します。ある人は、アポロについて成長します。ある人はケパについて成長します。そこにいて、成長しながら、神の国を私たちが築く主体となるための我々の情けないところ。しくじりやすいところ。弱いところ。そういうところにいっぱい気をつけさせられるんです。で、その間に我々は、何回も失敗をします。罪の悔い改めというのは、その為に、しょっちゅうあります。1:75:01.76

はい、57 ページに、【鍵となるのは集合人格の啓示】という項目があります。我々は、イエス様と神様と、第 1 のアットホームは、相互内在の中、その中に住んでいますか？ 住みましょうね。ゆるぎなく。そして、そのアットホームを暖かくするには、向き合って、交わることです。何も言葉も交わさないで、知らん顔して、そんな家庭、冷たいでしょ。アットホームはそこなんです。そして、次に、我々兄弟姉妹の出会いがやってくる。

だから、後半は、今度、アットホームを持ちながら、その次の相互内在を見て行きたいと思います。はい、休憩しましょう。

後半

はい、では後半に入ります。

本で言うと 57 ページなんだけれども、初めに 56 ページの一番下の第Ⅱコリント 10 章 7 節の聖句から見ていきます。こんな言い方はよくされるんですけど、

「あなたがたはうべのことだけを見えています。もし自分はキリストに属する者だと確信している人がいるなら、その人は自分がキリストに属しているように、私たちもまた（これ、パウロたちが言っているんですよ。）私達もまたキリストに属しているということを、もう 1 度自分でよく考えなさい。」

人間の概念というのは、もう長い間、人と人というものが、完全に別個で、関係性が切れている。あなたはあなた。私は私。という、そういう常識というか、感性というか、認識の中に生きています。もうそれは、そうでないと困るっちゃ、そうなんですけど、でも聖書の見方、神様の言葉を見ていくと、どうも、そうした徹底した個人主義ではない。個人は個人で大切なんだけど、『人と人』というのは、繋がりを持っているのではないのか。 03:15.88

こういうことを、個人主義が徹底し始めたこの 18 世紀、19 世紀 20 世紀において、個人心理学ってよく言われる現代心理学のいきついたところは、なんですか？という、『人と人との関係性』なんです。集合的な無意識。家族的な無意識。そして国家的民族的な無意識、というのがあるよね。それに対して、もう世界中で、それをなんだかんだといっても、否定できなくなってしまった。そういう民族的集団的な無意識というものが、根底にあって、どうもう動かされているのではないのかと。

でも、人間の内には、神と離れてから満たされているものが、もうないからね。空虚なんですよ。つまり、虚しい一人、一人になった。だけれども、自分が何か満たされていないということは知っている。その空虚な自分の中に、何かを入れ込みたい。満たされるために。そこに。色んな文化的な作業があったり、その人と、人との愛着心というものがあったりするわけよね。

でも、人間は、もともと神の霊によって満たされていたにもかかわらず、それが抜けてしまったら、神の霊に変わって、満たされるものが、一体、この世にあるのか？ありませんよ。 6:23.46

そこで、大きな福音は、キリストの霊によって、満たされるんだ。ここに、答えがあったわけよね。そのキリストの霊に満たされた私たちは、これもう、前のページで言っていますけど、『あなたがたは、一つの御霊によって、バプテスマを受けたんだよ』って。『私たちの内に内在する御霊は、個々ばらばらの御霊ではありませんよ。これは我々互いに 一つの御霊を受けたんですよ。』という、この宣言、すごいと思いませんか？

この一つ御霊を我々が、『受けた』という、この神様の見方に、我々の魂はなかなか、ついていけない。ついていけないんです。なぜならば、あまりにも個人、プチ切れた自分の魂の生き方に慣れ親しんでしまったがために。

7:59.35

だから、自分 一人の寂しい孤独な魂感覚の中に閉じこもってしまう。信じた後でも。深く、そのままの延長で、それを捉えてまう。だけど、新約聖書は、「そうじゃありませんよ。気が付きなさい」と言っているんです。

なんでそんなことを言わなければならないんですか？それは、神様は『キリストのからだ』という部分、部分を持った人たちを集め、召して、組み立てて、一つの体としたいからなんです。 9:18.57

だから、キリストの霊を持っている我々は、『キリストに起こったことは、我々にも起こった』と言って、はばかりないわけ。キリストに起こったこと、それは、私達をキリストの中にみておられた神は、キリストを十字架につけることによって、私達を十字架につけたんです。サタンに対する支払いを全部済ましてくれたんです。

だから当然、キリストの十字架の中に我々はいたし、キリストのよみがえりの中に私達はいたんです。

10:32.04

私達は、そのキリストの 一つの御霊を、それぞれ持っている。だから、その御霊が我々のために、とりなしてくれているということは、『私ひとりの為にとりなしてくれている』というのは、受け入れやすいけど、私たちの内の御霊は、あなた 一人の為だけにとりなしてくれているのではない。同時に、『他のたくさんのキリストのからだ』のためのとりなしも行っているということを、受け入れがたいんです。

だからね、「いやいや、私は自分のことだけあったらいいんです。だからいいんです」と。「他の人なんか関係ありません」と。私達がそう言って異言を語っていたら、聖霊は辛いよね。「なんで、なんで？」って。「あなたを含めて、みんなのからだのために祈っているのに。あんたは自分の為だけでいいんだって?!それちょっとなー。」「祈りにくいよなー。」って言うよ。[聖霊を悲しませてはならない]って書いてある。12:00.65

聖霊の実にのっとして、合わせて祈れば、我々の聖霊の交わりは、他の兄弟姉妹を造っていくのです。ところがみんな完全じゃないよね。発展途上の・・・「よっこらさ」っと腰上げて、歩き始めたものばかりだから。あの人の中にある御霊と自分と比べたって仕方がない。そんなみんな、互いに互いを支えながら、一緒に成長していくものですからね。12:57.02

それで、ここで、57 ページ、【鍵となるのは、集合人格の啓示】と言ってます。我々クリスチャンたちが主との相互内在を持った者たちが、共に集まって来ると、そこには、個人、バラバラの人が集まって団体になっているんだよと言うだけのものではない。その集合した人達の中に、聖霊によって、一つの性格が、一つの現れが、キリストの現れが、そこにあるわけ。見えてくるわけ。これを意識できると言うのは、ワンステップでしょう。

5C⑪キングダムセミナー20251108

自分のことばかり考えて、集団の中にいるのは、昔の私達かも知れない。

14:16.15

では、ここ 57 ページのところを読んでもみます。

【鍵となるのは、集合人格の啓示】

私たちがキリストに属するのか、サタンに属するのかは、重大なことです。

しかし、ここでさらに私たちがどういった人物と真剣な関わりを持つということも、私達を左右する重大な要素であることを知りたいのです。

・・・どういった人物と"真剣な関わり"という言い方してるけど、これは同じ相互内在を持った者同士が、『わたしとあなた』で向き合っていくということを意味します。単にすれ違いの挨拶しただけの「は一ん、あなた来たのね。」「あの人来たんだ」じゃないの。本当に会って、その人の内側を大事にし、その人の主との相互内在を守り、覆うという、互いの働き。その向き合いが大切。『わたしとそれ』じゃあないんです。15:39.34

使徒や預言者などのことも後日触れますが、彼らとの関係の重要性をコリントの人々も知っていたがゆえに、争いの素になったのでしょう。

・・・肉や魂がどうしても働くからね。御霊のそのままの現れで見る事が出来ないのが人間の肉、魂です。「あの人、気が合わないなあ」というふうな思いがブっとくる。16:19.89

彼らとの重要性をコリントの人々が、知ったがために、争いの素にもなったのでしょう。どのような使徒や預言者・牧師・教師たちにつくのか、向き合うのか、属するのかによって、私たちのキリストの中にある歩みは違ってくるのです。

とするならば、まして、キリストに属するという事は、どんなに私達を決定つけることでしょうか。

・・・肉のレベルで、魂のレベルで、「わたしあの人と気が合うな」と、ぐちぐち愛着を育んでいるという、そういう向き合っている、属するという事とも存在します。でも、初めのアットホームのキリストとの相互内在が、その人にあるなら、キリストに属するということが、私達の兄弟姉妹の内に、開かれてくれば、重要に気がつきます。

だから、こういうことに思いを留め、漫然と「キリストを信じています」「私クリスチャンです」ということが、もったいないことなんです。本では、問題って書いてあるけどね。

使徒に起こったことは私にも起こったと考えること。このような他者との関わりセンスしかないのが聖霊なのです。18:21.57

・・・こう、思ったことはありますか？私、今までもいろんな素晴らしい先輩クリスチャンに出会ってきました。で、その中で、「この人の中に起こったってことは、僕にも起こるんだろうな」って思う。うん、ほんと率直にそう思ってきた。「すごいなこの人は、・・・私は駄目だ」と思う？私、もうちょっと厚かましいよ。「あ、この人に分

かったということは、私もそのうち分かるんだ」と。ワクワク、ドキドキよ。ね、その道を辿りましょうよ。

19:09.52

これが、『キリストにあって～』とか『キリストによって～』とか頻繁に言われる理由なのです。『主と一つにされている』という相互内在を当然とする理由です。聖書がこの基盤の上に書かれています。この一連の集会の中では、この土台的概念を『集合人格』と呼んでおきます。そして、集合人格で形成される集団を、『人格共同体』と言っておきましょう。さあ、あなたの方の中には『集合人格』を意識できる人がいるでしょうか。 19:57.70

・・・自分で、自分の中にまで目を向けていたあなたの魂の目を神様の見方に沿って周りを見て、解き放っていくことです。そしたら、あなたの存在のミニストリーは変わっていきます。自分が、自分がと、今日、自分がそこばかり見て浮いたり、沈んだりしている。そういう歩みの調子を、脱出して行きます。

それから、58 ページ。

『あの人に起こったことは、私にも起こっている』または、

『私に起きたことは、あの人にも起こっている・・・』と。

・・・今さっき言ったこと、これが発達してくると、分かってくるんです。私たちは交わっていると色んな相談事をしたりもする。で、その人のことを、魂を、その人に聖霊がどう働いているか、駆り立てているかということが。

それで、その人のことをずっと自分も霊の中で思い巡らしていく。そして、その人のことを思いながら、霊の祈りをしてごらんなさいよ。そしたらね、聖霊は、自分のことじゃなくて、その人のことを深く現わしてくださるようになるんですよ。だから、時には、御霊との交わりの中で、一つの言葉が湧き上がってくる。これこれ、こうこうなあって・・・と。その言葉を思い巡らしているとね。「ああ、御霊は、こんな言葉をくれた」っていう思うわけよ。それで、「こんな言葉をくれて、良かった、嬉しい」と思うんだけど、それに留まらないわけよ。それで、よく考えてみると、「ちょっと自分に当てはまるには違うぞ」と思って、「そうか。あの人のことを、心に思い巡らしていて、その続きで、私は霊の交わりの中で、その言葉が与えられたんだ!」と思うと、「あ、これ、私じゃなくて、あの人に与えられた言葉じゃないの?これって」と、思う。23:19.31

そしたら個人的に、「私にこういう言葉が来ただけだね。どうも私はあなたにだと思っただけで・・・」と言って、そういうナチュラルな働き方というのが、聖霊による預言の働き方なんです。預言、預言ってよく言うけど、荒野で預言者が、「誰誰よ、よく聞け」なんて言ってる預言じゃない。私たちキリストのからだの中の聖霊の言葉の語り合いなんです。 24:02.85

だから、私ね、「こういう言葉が来たんですよ」と言って、「預言だからね」なんて言わないよ。だけど、「あなたも吟味してくださいね。しっかりあなたの内で思い巡らして、吟味して、それが自分への言葉だと思えたら、受け取ってくださいね」ということです。だから、押し付けたり、宣言したり、なんだかんだということを、そういうことをやっていると、魂的な作用が入り込んでくる。24:59.54

「そしたら、あの人に起こったことは、私に起こってくる。それが悲惨なこと、まずいことであっても？」「じゃあ、私にも、それが起こってくるんですか？」と。「それに自分もノックアウトされるんですか?!」と。とんでもない。その人の苦しみ、起こったことを、私も共に受け止めて、私はそれで、その中で、シャキッと立ちますよ。そして、その人に何を言う、その人の為に祈るどうのこうのよりも、それが、『その人と共に立つ』ということの助けとなるんです。 25:47.29

ですから、『私達がシャキッと出来て、勝利出来た』というけれど、どこでどういう兄弟姉妹達が、自分に伴う霊を持って、立っていてくれているか、わかりませんよ。誰も主は、誇らすことが無い。誰も主は、へこますことが無い。そういう共同体の中に私達は置かれているんだということ。 26:23.06

次、58 ページの上段、続きを読んでいます。

聖霊が持っている概念を黙想し、自分に当てはめることは有益です。(是非初めは夫婦、親子、兄弟などの関係で思いめぐらせてみてください。比較的捉えやすい方が多いと思います。)

・・・ここはちょっとね、この 2 行はね、() カッコをつけといてください。この 2 行で、肉的な感覚に引っ張られる人がいると思うから。魂的な感覚に引っ張られる人がいると思うので。そうじゃないからね。そのレベルで言っていないからね。他にも、こういうところを、ちょこちょくこの頃、昔は私言っていたんだと思います。 27:10.59

次、ではここで【集合人格】というものを、もう少し整理してみましょう。今まで話してきた観点で、聖書を読むなら、すぐにわかることなのですが、集合人格がどのようなものを、最もよく表現しているのが、父なる神、子なるキリスト、聖霊の『三位一体』の関係です。ですから、集合人格の手本であるこの 三者の関係を中心にまとめてみます。 27:48.16

で、何個か主だったものを挙げていきます。論理だって挙げているようで、こういう言い方も今、私が皆さんと共に座って、じっくり共有するのに、なんかそぐわない感じがするんだけど、まあ、聞いてください。 28:22.01

【集合人格】

その①《メンバーの命の相互内在》

これについては、詳しい説明はもう必要ないでしょう。イエスは父の相互内在を何度も明らかにされています。ヨハネ 10 章 38 節はその 1 つです。

[父がわたしにおられ、わたしが父に在ることをあなたがたが悟り、また知るためです。]

・・・これを、イエス様は、我々に悟って欲しいんだよ。「イエス様を私たちが救い主だと信じてくれるだけでいい」ということでは、ないんだよ。

そして、これは、イエスと父なる神との間にとどまらず、聖霊によって、私たちを含めた現実となっていることは明らかです(ヨハネ 17 章)。さらにまた、人と人との関係も 一つの御霊を持つことによって、相互内在が当然となっています。(I コリント 12:13、エペソ 4:25)

・・・後でゆっくり読んでください。メンバーの命の相互内在。すごいでしょ。皆さん、このように、神の思いの中で、自分自身を大切にしていますか。それと、同時に、向き合う一人ひとりの兄弟姉妹を大切にしていますか？

30:28.71

次、その ②《個人が全体を表す》

これは、相互内在の当然の結果です。父を見せて下さいと尋ねるピリポに、イエスは『私を見た者は、父を見たのだ』(ヨハネ 14:9)と言われました。

また、『わたしを信じるものは、わたしではなく、わたしを使わした方を信じるのです。また、わたしを見るものは、わたしを使わした方を見るのです。』とも言われました。(ヨハネ 12:44、45)このように、この時はイエス御ひとりが三位の神全体の現れだったのです。イエスが話した全てのことを思い起こさせ、すべての真理に導き、イエスの栄光を表すという聖霊も、三位の神の全体の現れでした。31:30.64

・・・このように聖霊を認め、大切にしましょうね。

そして、同じ原理がアダムにも働いています。アダムは三位の神の形を映され、アダムを見るものが、神を見ることが出来るほどの関係に、彼はいたのでした。この世にあって、アダムは三位の神全体を現すことのできる存在だったんです。(創世記 1:26、27)

・・・創世記の 1 章で、ここまで受け止めることが大切。理科の教科書みたいに、「はんはん、なるほど、このこういう順番で・・・」という、その程度の読みを聖書に、創世記からさせられていたら、これは分かりません。

32:28.73

ここにサタンがアダムを狙った理由がありました。(そうでしょう。) そして、アダムという個人のしたことは、子孫として地に満ち溢れた人類全体を表し、全人類のしたこととなりました。「罪を犯したのは、アダムで、私には何の関係もない」というのは全く通用しません。そういうのは、霊の領域を知らないからです。このことが理解できなければ、どうして、キリストによって救われることが理解できるでしょうか。

・・・そうですよ。二千年前に十字架にかかったお方が、なんで、2025 年になった今の私達を救えるんですか？この『霊の原理』が、想像の初めから、いやいや、世界が造られる前からあったからです。33:32.67

あなたが今、キリストの中にいるならば、キリストはあなたを表して、あなたはキリストを表しているのです。使徒パウロが教会に向かって、次のように言うのは、この霊的現実を目指してのことをなのです。

I コリント 12:27

[あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各機関なのです。]34:01.46

ところがあなたが一肢体であるということは、あなたが全体のほんの一部分に過ぎないという意味にも受け取れないでしょうか。

・・・どうしても、そう受け取りやすいんです。この真理がわからなければ、私はキリストの一部だというけれど、「俺なんて、ほんの端くれさあ」「私なんて、はしくれのはしくれですよ」と。34:40.82

その次、60 ページ。

「全体にはさほど影響を与えない 一部分。単に 1 つのパーツに過ぎず。それだけを見るなら、何に使われている部分なのか、さっぱり分からない。そういった意味の一器官があなたなののでしょうか。そんなばらばらなパーツを磨いて、寄せ集め、なんとか、一つの体型に仕上げるために接着されたのが、私達なののでしょうか。

聖霊は、それを「キリストのからだ」とは呼ばないのです。一つ目的のために呼び集められた者たちという意味で、エクレスシア、教会という言葉が使われています。しかし、パウロがエクレスシアは「キリストのからだである」と、さらに言い換えているのは、エクレスシアでは、まだ表現しきれない『集合人格』という集団の奥義のゆえだということは明白です。

これは、さまざまな管弦楽が演奏するシンフォニーを考えてみると、理解しやすいと思うのです。全ての楽器が音を奏する時もありますが、時に小さなピッコロのソロ演奏となる場合があります。この時、聞こえているのはピッコロの音色だけですが、実はこの小さな楽器のわずかな旋律が、シンフォニー全体を表現しているのです。これが『からだ』というものです。

個人が全体を表すとは、こういうことなのです。その人を知る時、その人の属する全体を知るのです。神の民において、一部分であるということは、その部分の専門バカになることではありません。

いいですか。こう言いましょう。バラバラなパーツが、先に存在しているのでは、ないのです。一つである全体の命が先に存在しているのです。御言葉の啓示は、「私たちが元はバラバラなパーツだった』と発想することをもはや許しません。[『古いものは過ぎ去った。見よ。すべてが新しくなった』]と、神があなたに宣言した時に、これが起こりました。

『あなたがたと主とは、一つとされている』ということが、もはや出発点なのです。夫婦は、以前はばらばらな二人だったことなどはもはや忘れて、互いが『一つのいのち』であることを発想の起点にした、まさに『一人のからだ』なのです。

『一つである全体のいのちが先に存在している』と言いました。そうです。一つのからだのいのち、そのものを、私達は共有しているのです。このことは『からだ』というものの理解を深めてくれます。

『からだ』とは『命を吹き入れられた多くの器官からなっている』ということです。命は肉体のあらゆる器官に広がっていて、どこの器官をとっても、そこにからの命が存在するのです。

『血はいのちである』と言われた神は、からの命が心臓にあるとか、脳にあるとかというイメージをイスラエルに持たせませんでした。からのどこを切っても、血が滲み出るように、命が肉体全体に満ち満ちているのです。

パウロが、「私たちはキリストのからだ」というとき、『一つである命と人格を、すべての器官が持っている』というリアルな表現だったのです。

これは安易な現代人の概念と決定的に違うところです。からの命が心臓にあるとか、脳にあるとか考えるとき、手や足は全体への関わりが希薄になり、ただ、「全体の助けになっている」だろうという、お手伝い感覚に落ち着いてしまうのです。普段から馴染んでいるこの概念が、私たちの互いの関係をどれほど制限していることでしょうか。

39:40.36

ここまで言うと、皆さん、自分の主のと相互内在が本物でないと、これ飲み込めませんよ。無理です。ものすごい試金石。あなたの隣人、あなたの周りの人達の関係性は、あなたと主との相互内在を試します。主との相互内在の中で、心底、自己肯定感を満たされていくのです。主との相互内在の中で本当に、自分の愛着心。人と共になりたいという深い愛着心も、主との相互内在の中で、満たされていくのです。いつまでも主に向くことなく、自分の愛着心の満たしを他の人に求めてさまよって行くなら、その中では、ここまでいきません。41:26.29

そして、その ③

《全体の前進は、常に個人、あるいは少数の者の前進によって成し遂げられる》

一人が全体を表すならば、これはまた当然の結果です。救いの事業を前進させるために、三位一体の神の三者全体が同時に現れたことはありませんでした。イエスが地上を歩まれたとき、三位の神体の事業は、イエスの働きにかかっていました。イエスは、人として、同じような苦しみと誘惑の中で、ご自分の自発的な決心で、父の思いを実行したのです。ヨハネ 10 章 18 節で、このように言われました。

「だれもわたしからいのちを取ったものはいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威があります。わたしは、この命令をわたしの父から受けたのです」

42:48.54

・・・イエス様の心の中 一つの決心に、権威に、父も御霊も全ての働きがかかっていたわけでしょ。イエスがこの壁を突き破ったことは、三位の神全体の大いなる前進となりました。個人と集団という観点から見れば、これは当然すぎるほどの真理です。

アブラハムの信仰は、人類の前進になりました。モーセの召命と彼の献身は、ヘブル民族の壁を見事に打ち破りました。当初は、集団の中で全員に認められるということはありませんが、本人はその道に進むことに、かり立てられているのです。自分の集団から理解されず、反対され迫害されることもしばしばでした。

5C⑪キングダムセミナー20251108

しかし、この世の集団は、まだまだ三位の神のような、完全な人格共同体ではないからです。しかし、たとえ別理を余儀なくされても、その人は全体に仕えているのです。イサクもヤコブもヨシュアも、サムエルも、ダビデも、そうでした。無数の預言者たちも、みんななそうでした。44:26.93

このように動かされた人々の数は、イスラエルの中に数えきれません。新約の共同体の中でも、使徒や預言者たち伝道者たち、牧師・教師たち、そして、様々な務めに駆り出された聖徒たちが、今に至るまで、これを繰り返しているのです。この過度の時代にはもちろんです。

この集団の進歩・成長は、常に個人やごく少数の人々のイニシアティブによるのです。集合人格のこの特性を歴史上最も強列に表したのは、私たちの主イエス・キリストでした。45:14.26

キリストの教会の全員が全く同時に同じことをし、同じ前進を遂げることは、ありません。教会の成長は、まず使徒や預言者といった人々の少数が揭示を受け、それまでより一步前進することから始まります。

神は教会の全員に同じ啓示を同時に与えることはしません。まず、その中の一人ないしは、少数を呼び出し、啓示を与え、任務を授けます。そして、その人たちから、次々に啓示は伝達され、分け与えられていくのです。やがて、啓示が全体に行き渡り、全体がそのレベルに達したなら、喜び安心するでしょう。

しかし、・・・ここからですよ。・・・全体が安泰したそのただ中から、再び誰かが次のレベルへと先に進み、歩み始めるのです。喜びのただ中の全体から見れば、なんと一致を乱し、・・・いらんことを言うやつだと、・・・自分勝手な人間に見えることでしょう。

そこには、安泰と混沌が混在しています。このことは、教会に目を留めるよりも、夫婦や家族を見つめれば、もっと身近に激しく展開されている事が分かります。・・・ですよね・・・

このようにしながら、三位の神の集合人格のレベルと同じほどの堅固な共同体へと、私達は練られ、試されながら、向かわされていくのです。47:17.80

時間がないので、ずっと続けて読みますよ。一緒に読んでいきますね。

④《過去から未来への一体性》

イスラエルの民はいつの時代も、自分たちの時代に生きているものだけが『自分たちのからだ』だとは、考えていませんでした。「自分たちが今あるのは、先祖の忠実な神とともなる歩みのゆえである」と考えていました。前の時代の築いた土台の上に家を建てるべく、自分たちはバトンを渡されたに過ぎないことを意識しているのです。

そして、次の時代の子供たちが、さらに完成してくれるための中継ぎだと思っています。このような集合人格は、時間をも超越した一体性が特徴です。この意識は、未来に及び、永遠を含んでいるのです。

私たちは確かに、この時代に一つのレベルの歩みをしている集団です。家族です。この歩みと、この新しい家族を得るために、以前の集団から決別を繰り返したかもしれません。そこには摩擦があり、傷と痛みが残ったかもしれません。しかし、もう戻りたくない、出会いたくないという思いとは裏腹に、驚くのは、どの過去の共同体とも一体とされているのが、集合人格のリアリティなのです。そして、同時に、子供達も、また子供たちへと続く未来の世代との相互内在を確認しているのです。49:22.96

・・・壮大な神の共同体だから、栄光です。だから「え？待ってよ。私の先祖クリスチャンじゃありませんでしたよ」とかね。「いや、私の子供はまだ救われてないんですよ」とか、「孫はそうじゃないんですよ」とか、もうクリスチャン達が集まったら、そんな話が出るけれど、でも先祖もこの時代この我々を生み出したということにおいて大きな喜びであり、慰めであるはずです。50:15.17

私たちが今生きている歩みを主との相互内在の中で、家族との相互内在を生き生きと、生きていくならば、口でがみがみどうのこうのと、子孫に言わなくてもね、それは命として伝わっていつているんです。

それをね、「いや、まだ信仰告白してないから、まだ救われてないんです」とかなんとかって。ぶちぶち、ぶちぶち、そこで裁きのナタを振りかざすことはないんです。大切なのは、今、自分が神との相互内在と、今いる集合人格の中に生きるかどうかです。その命の中に、私たちが生きていくかどうかです。そうなんです。そうじゃないですか。51:18.68

ノアの箱舟で、正しいのはノアでしょう。ノアの家族はどうなんですか？奥さんの名前さえ書いてない。セム、ハム、ヤフェテが義人だったとか、神と共に歩んだとは書いてないんです。でも、神様はノアを選んで、そのノアと命の関係を保っている、まさにその家族と一緒に入れました。

パウロも言っていますでしょ。「あなたの信仰を持たない夫でも妻でも、あなたの信仰のゆえに、聖められているんだ」と。そしたら、それはすなわち「救われているんですか」とか、すぐ、その『救い』という言葉に持っていく、クリスチャンたちがなんと多いことでしょう。52:21.33

その一線を引いた『救い』というものに、持っていくもんじゃないんです。『救い』というのは、その『いのち』というのは、今日のいのちと明日のいのちと、全部連続していて、一つの流れの中にあるんです。

今日この流れにあったら、明日は、その今日の流れの『いのち』の結果を受け取るんです。だから、あなたの未信者の夫も、あなたのゆえに聖められているんだ。大いなるこの集合人格のゆえの励ましを言っているわけです。その辺をキッチリ、整理できますように。まだ、もう一つ、わからないようだったら、LINE 繋げて尋ねてください。もっと、説明したいと思います。53:18.92

次、63 ページの下を読んでいきます。

《そこにはもう一人のわたしがいる》

以上、集合人格の特徴を思い巡らしました。しかし、お解かりのことと思いますが、教室で勉強すること事柄ではありません。日々主と歩みつつ、霊的黙想の中で開かれてくるものです。

あなたの内で集合人格が啓示になり始めると、相互内在の真理が、当然のこととなってきます。さらに、思い巡らせてみましょう。『私の中に主のいのちがあり、主の中に私のいのちがある。』もし、あまりにも主と自分とを同心円的に見ることが、突飛なことであるならば、同じ実態をもう少し私たちの生活観に近づけて、黙想しやすくしてみましょう。私たちがこれを黙想している以上に、主ご自身が黙想しておられるのですから、次のように言うことができます。54:25.46

「主から見れば、あなたはどのように見えると思いますか。」

これが大切な視点です。イエスから見れば、あなたは『もう一人の私』なのです。天の父から見れば、イエスはもう一人の私でした。そしてイエスから見れば、聖霊はもう一人の私でした。そして今、イエスがあなたを見る時、『そこにもう一人の私がいる』とおっしゃるのです。55:00.94

この現実の中で、次に私たちが互いに出会えると、どうなるのでしょうか。あなたは、自分の教会の人々の中で、「周りの人々と同じでなければならない」、「人と違ってはならない。みんなの真似しよう。」という衝動を持たなくなるでしょう。

自分と違って召しと賜物、務めの方が楽しいと思う事でしょう。自分と違う資質と性格を持っている兄弟を喜ぶことでしょう。

なぜなら、自分がもし二人いたならば、もう一人の自分も全く同じ召しと賜物、資質と性格を持っていたほしいでしょうか。いいえ、そうではありません。むしろ、自分と違ったものを持って、自分にできないことをやって欲しいと思うものです。もう一人の私がいながら、二人とも同じことをする必要は無いのです。

さあ、あなたの伴侶、そして家族、教会のメンバーを、一人一人ゆっくりこの視点で見つめてください。そこに、もう一人のあなたがいるはずです。初めから大勢の人を、『もう1人の自分』として確認する必要はないでしょう。焦らなくても、誰も奪ってはいきません。神が確保してくださっていますから・・・。

でも、もし自分と全く同じ召しと賜物、資質と性格を持ったもう一人の私が生きて欲しい。そして、一緒にやりたいと願っているのなら、その人は、「イエスの中にいる自分」を思い、主のただ中で、もっともっと、憩うことが必要があります。その人は、自分の寂しさ、孤独感、自信のなさをカバーする『もう1人の自分』を求めているからです。

このような『もう 一人の私』を周りの人々に要求する時、探す時、エクレシアの『キリストのソーマ（からだ）』としての姿は、破壊されてしまうのです。自分の寂しさ、孤独感、自信のなさ、主との相互内在の中で、癒され満たされるべきです。その癒しと満たしは、イエスの中からやってくるものなのです。

あなたはイエスから見て、『もう 一人の私』なのです。あなたは寂しくなく、孤独でもなく、自信に溢れています。あなたは、あなたで 充分なのです。

イエスは願っておられます。『あなたは、あなたであって欲しい』と。
イエスの中にいる自分が、自分で認められるようになると、もう 一人の私が見えてくるのです。 58:50.88

どうでしょう。キングダムセミナー、まだこれ、前半なんです。あとあと、まだまだ、ずっとずっと、続くんですけど、このパート 1、パート 2 をしっかり消化した人は、後がめっちゃ面白いです。違います。読んでいて、聞いていて違うはず。そのために書かれているものですから。

だから、知識として、頭の中に分かろうとか、どうのこうのっていうのは、もう浅い、浅い。自分の腹の底から湧いてくる聖霊を認めて、そこから、とっぴり主と交わりたくなってくるでしょう。そこにあるんです。神の国のリアリティが。 59:51.83

パート 2、ちょっとだけ残ってますけど、次回ここを振り返りながら進めていきましょう。
 はい、時間が来ました。信仰の歌の一つ歌いましょう。1:00:10.13

主の純粋なみことばを心に響き渡らせていきましょう。
 12 番初めに歌ったの祝福されたいのちのことばを歌いましょう。
 賛美

祈り 1:04・04.01

心を合わせられる方、心を合わせてください。
 主よ、あなたがまさに、我々の内に届き、住み、あなた自身が憩い喜ぶ我々のアットホームであることを。
 あなたの見言葉を食べます。あなたの御言葉をしっかりと噛み砕きます。あなたの御言葉を呑み込みます。
 あなたの御言葉を反芻します。単なる眺めているだけのものになりません。
 一步一步、私たちはこの時に、この日に、今日という日に、それを創り上げていきます。
 主よ、一緒に立て上げていきましょう。
 あなたと共なる私たち、共にいる。離れていても、共にいる私たちであることを宣言します。
 そのことを高らかに上げます。アーメン。

5C⑪キングダムセミナー20251108

主の御名の中、御国の中において、我々はこれを語り宣言しました。アーメン！
それでは、11月のキングダムセミナーを終わります。

追伸；
また、録音がアップされると思います。録音だけではなくて、文字起こしさえもアップされてます。本当に恵みですから、どうぞ皆さん。1ヶ月間ありますので、よく振り返りながら。自分の物として行こうじゃないですか。私もそうしますからね。

それから、後で録音がアップされます。本当にアップしてくださる奉仕を感謝します。でもね。皆さんね、もう感謝、感謝はみんな、みんな、そうなんです。ですからね。50人近くいますから、みんながありがとう。ありがとうってアップし始めたら見るの大変になってきますから、あのね、もう感謝感謝、ハレルヤがあるなら、・・・もうリアクションで結構ですから。
お一人お一人、そうしていきましょう。

では、今日はこれで終わります。ありがとうございました。